

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2019-01-15

APM news 206

秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館

中之口先人館・特別展示 会期：8月18日(土)～9月30日(日) / 作品解説：8月25日(土) pm2:00～pm3:00

「水と土の芸術祭2018 地震ポスター展」

会場：新潟市中之口先人館 先人館ギャラリー / 主催：西蒲区文化施設を運営する市民の会



〒940-1106 新潟県長岡市内宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



2018年8月18日(土)～9月30日(日)、新潟県西蒲区にある中之口先人館の先人館ギャラリーにおいて「水と土の芸術祭2018 地震ポスター展」を開催した。中之口先人館での展示は、昨年に引き続き2回目である。今回は3年に1度、新潟市内で開催されている「水と土の芸術祭」の会期と重なったため、この展示も参画することとなった。

地震ポスター展では、多摩美術大学・教授であり、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)の館長・秋山孝が始めた「地震ポスター支援プロジェクト」のコレクションの中から厳選した64点を展示した。地震ポスター支援プロジェクトとは、災害支援においてデザイナーのできることは何かということから、ポスターの力を使い災害を忘れず記録することを目的にスタートしたプロジェクトである。きっかけは2004年10月23日に新潟県中越地方で発生した最大震度7の中越地震である。故郷・長岡市が被災したことを受け、秋山館長が同年12月にスタートした。

8月25日(土)には関連イベントとして、出品者による作品解説が行われた。秋山館長の他、高橋庸平氏、堀池真美氏、たかだみつみ氏、大町駿介氏、鷲尾恵一氏、橋村実里氏ら出品者が自身の作品を解説した。また、地震ポスター展の意義についても説明があった。日本には多くの地震の記録が残っており、古いものは416年にまで遡る。それ以降も数え切れぬほどの地震が日本を襲い、それらが記録に残されている。それにもかかわらず、我々人間はすぐに忘れてしまう。だからこそ、ポスターの力を使って災害の記録を風化させないように訴え続けることが大切であると秋山館長は述べた。

今年の中越地震発生から14年目である。秋山館長が語った通り、当時の記憶はしだいに薄れ、断片的となってくる。人間は忘却していくものだからそれも仕方ない。ただ、忘れたままにするのではなく思い出し、どう対処するか考えることが大事なのではないか。秋山館長らの地震ポスターは災害を忘れてはならないとメッセージを発信している。そのメッセージを受け取った私たちはどうするべきなのか問われているように感じた。(森山奈帆・APM職員)